

ムギ類赤かび病情報第2号

平成31年4月25日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

今後の気象状況に注意しましょう

1 赤かび病菌の生態

赤かび病の第1次伝染源は子のう胞子で、雨が降った当日から2日後にかけて子のう胞子が多く飛散するため、降雨後は赤かび病菌に感染する可能性が高まります。また、第2次伝染は発病穂からの雨滴による流下や風による分生胞子の飛散で起こります。したがって、降雨後、早急に防除を行うことが大切です。

2 今後の気象状況と赤かび病の発生予測

名古屋地方気象台4月25日発表の1か月予報によると、平年と比べ晴れの日が多い見込みです。開花期から乳熟期に降雨が多く、気温が比較的高い(20~27℃)状態で経過すると急激に感染が拡大するので、今後の気象状況によっては注意が必要です。

3 防除対策

開花期における1回目の防除以降には場で発病穂が認められ、降雨が予想される場合は、発病穂からの第2次伝染による被害を防止するため、乳熟期を目安に防除が必要になります。2回目の防除を実施する場合は、下表を参考に1回目の防除とはFRACコードの異なる薬剤を地域の実情に応じて選びましょう。

表 小麦における赤かび病の主な防除薬剤

作物名	薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	FRACコード
小麦	ベルコート水和剤	収穫21日前まで	3回以内 (出穂期以降は1回以内)	散布	M7
	ストロビーフロアブル	収穫14日前まで	3回以内	散布	11
	トップジンM水和剤	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内)	散布	1
	トップジンMゾル				
	ベフラン液剤12.5	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は1回以内)	散布	M7
	ベフラン液剤25				
	シルバキュアフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	散布	3
	チルト乳剤25	収穫3日前まで	3回以内	散布	3
トリフミン乳剤	収穫3日前まで	3回以内	散布	3	
麦類 (大麦を除く)	ワークアップフロアブル	収穫7日前まで	3回以内	散布	3
無人航空機・無人ヘリコプター用					
作物名	薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	FRACコード
小麦	トップジンMゾル	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内)	無人航空機 による散布	1
	チルト乳剤25	収穫7日前まで	3回以内	無人ヘリコプター による散布	3
	シルバキュアフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	無人ヘリコプター による散布	3
麦類 (大麦を除く)	ワークアップフロアブル	収穫7日前まで	3回以内	無人ヘリコプター による散布	3

FRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

1 : MBC殺菌剤 3 : DMI殺菌剤 11 : QoI殺菌剤 M7 : ビスクアアジン

FRACコードの詳細は、http://www.jcpa.or.jp/labo/jfrac/pdf/code_pdf01.pdfを参照する。

薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守り、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。